

## ○名刀同田貫

肥後(熊本)の刀工同田貫一派は、菊池の延寿鍛冶の末流であり玉名付近の同田貫に居住、加藤清正に仕え、朝鮮の役にも従軍しました。

この一派は主として実戦用の刀を製作したのですが、これが有名な名刀「同田貫」で長さは二尺三寸(約七十七センチメートル)余り、重さは二百二十匁(約八百二十五グラム)ほどです。

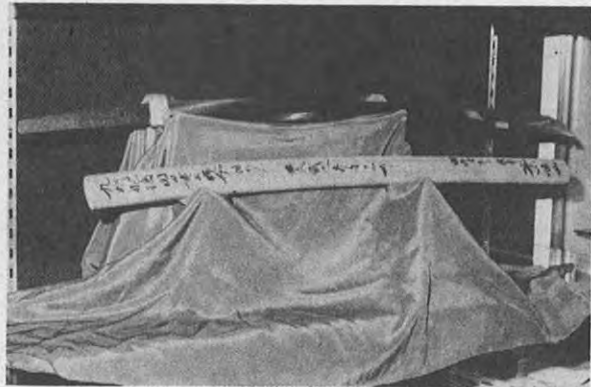
同田貫の丈夫さについては「折れず、曲がらず同田貫」という言葉があるくらいで兜や鎖帷子さえ切り裂いたといいますが、

元禄時代の日本刀が裝飾的で優しい感じを与えるのとは対照的に、慶長時代に造られた同田貫は、「美観よりも切れ味」ということで実用本位に製作されているため華麗さには欠けますが、「素朴な良さ」というものを有しています。

もともと野戦用に造られた重厚で鋭利な刀であるため、一般の刀剣のように縦

横無尽に振りまわすことのできるものではなかったらしい。江戸時代からはこの同田貫が、切れ目の(切れるもの意)と呼ばれて有名になったということです。

菊池川の砂鉄から造られたというこの名刀同田貫には、現在十余数の刀工名が残っておりませんが、中でもその長となっているのは「同田貫上野介正國(正は清正の一字を拝領)」といえます。



## 民話



### 騙された狐

高森町文化財保護委員

岩下 真理子

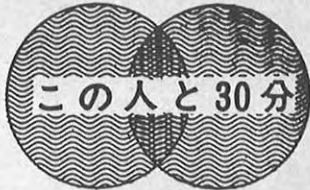
昔な、ある村にたちの悪い悪さばかりして村人ば困らせとる狐がおったった。ある時、トウキビが植わつとる畑の中にイドラやら石やらがぐっさり投げこんであつたもんで、知恵の多か親爺さんが「こりやイドラやら石ころじ良かったなあ。こりがコエどんなら臭うして引き出しも出来んばつてん。」てち大声で言うたげな。あくる日畑に行つてみると案の定コエがぐっさり入れちある。親爺さんな心ん中じゃしめしめてち思とつたどん「あーあ、こぎやんいっばいコエが入とる。どぎやん仕様もにやなあ。」てち弱つた顔ばしとつたてつた。

そりかりいときして、そんな親爺さんが畑仕事に行きよつたところ、例の狐が木の蔭じ一生懸命木の葉ば体につけち人間に化けよるげな。親爺さん「またあん狐、悪さばしようち思とるな。よし、ちいつとこらしめちやろ。」てち考え、狐が出てくるとば待つとつた。狐は別品の娘に化けちかり、しゃなりしゃなりと出てきて親爺さんの前に来て、いろいろ話しかけて騙くらかそつするげな。

一時してかり親爺さんなこぎやん狐に言うた。「良か女子に化けたつもりじやろが、まだまだ修業が足らんなあ。お前やまだカンシヨクしとらんじやろ?」カンシヨクしとる狐なら人に化けるとこば見られたりはせんもん。」カンシヨクちいうのは資格ばとるちいうよな意味げな。そしてかりカンシヨクさせちやろかてち狐に言うて狐はまんまと騙されち、「どうかお願いば致します。」てち親爺さんに頼んだ。親爺さんな狐が人間に騙されるとやら聞いたことがにやあてち思いながら、すました顔じ「よしよし、お前がそぎやん頼むならカンシヨクさせちやろ、まずカンシヨクするとはどうまい袋ん中にひやあらにやならん。」てち狐ば袋ん中にひやあらせちしもち袋だたきにしてこらしめたそうげな。

こりでしみやあ。

(話者||久木野村・帆足スエジュさん)



このコーナーは県出身者で各界のトップとして活躍しておられる方々を紹介するとともに、県政への提言などをお聞きするものです。

## 若手の奮起を

元大関 栃光

千賀の浦親方

強い当たり、早い突きっぱなしによる立ち合い一気の押し。飛ばれてもいなされても真一文字に押す典型的な押し相撲。不知火いらい百三十分の大関「栃光」の取口に県下のファンは熱狂したものだ。けいこの虫、模範力士」と言われたことについて「結局は自分のためだったんですよ」と控えめに話す元大関も、話題が相撲界に及ぶと表情は一変する。現状を憂え、若手の奮起を熱く語るその眼はまさしく親方のもの。

昭和八年牛深市深海に生まれる。七人兄弟の長男。昭和二十七年春日野部屋入門、二十九年夏場所十両入り、三十年春場所十両全勝優勝、翌年早くも入幕した。初土俵以来十四場所、異例のスピード出世。三十二年小結、その後三十七年大関、以来四十一年引退するまで、安定した取口で土俵をわかせた。

本名 中村有雄 現在 審判委員  
住所 東京都墨田区千歳一七七一六

### 相撲とり志願

小学校に行っている頃から、将来の希望は?なんて聞かれますとね、相撲とりになるんだと言っていましたよ。中学校を卒業した頃には、村の青年団の相撲大会では、年が一番若かったですけれどね、飛び抜けて強かったです。身長一メートル七十センチ、体重七十キロぐらいのものでしたからね、今から思えば、特別大きくもなかったんです。

相撲とりになるということについては、反対が強かったですね。僕は七人兄弟の長男でしたし、家が百姓をやっていたものですから、後継ぎだというわけです。親子の縁を切つてやるという反対されました。僕はそれからというものふてくされてね、ストライキですよ、仕事も何もせずに、ただゴロゴロ。親父もこれには困つたらしくてね、こんな大きな図体を遊ばして、ただ飯くわすのも大変だと思つたんでしょ、親族会議を開いてくれましたね、そんなに好きならということ許してもらいました。

### 春日野部屋入門

昭和二十七年五月一日春日野部屋入門、満十八歳の時の事です。相撲とりになるについては、すすめる

